

2011 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 14:50~15:50 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙のみです。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。

I 農業や土地制度に関するつぎの短文（1～8）を読み、空欄（A）～（J）に適切な語句を入れ、解答用紙の所定の欄にその答えを正しく記入しなさい。

（20点）

1. 農耕が始まった新石器時代の初期の農法は、雨水にたより、肥料を用いない単純なものであった。やがてメソポタミアやエジプトでは、河川の水を利用した大規模な（A）農業が営まれて食糧生産が発達し、都市文明が成立した。
2. 古代のローマでは、本来、中小農民が平民として軍事においても政治においても重要な地位を占めていた。しかしその後、ローマがイタリア半島を統一し、さらにイタリア以外にも領土を拡大すると、戦争などによって得た奴隷を大量に使役し、（B）と呼ばれる大土地所有がひろまった。またローマ帝政後期になると、有力者は、没落した自由農民や解放奴隷などを使用し、所領を経営するようになった。やがてこれらの人々は移動の自由を奪われて土地にしばりつけられたが、この農業生産体制は（C）といわれる。
3. 西ヨーロッパでは、封建社会が形成されるなかで、農業技術の改善がみられた。とくに水車や鉄製有輪犁が普及し、また耕地を秋耕地、春耕地、休耕地に区分する（D）制がとられるようになると、農業生産力が飛躍的に増大した。
4. ビザンツ帝国では、7世紀以降、アラブ軍の侵入に備えて軍管区（テマ）制がしかれ、軍管区では、兵士や農民に土地を与えるかわりに兵役義務を課す（E）制がおこなわれた。しかしその後、大土地所有者である貴族が台頭したので、11世紀以降、皇帝が軍役奉仕と引き換えに貴族に国有地の管理権をゆだねる（F）制が実施された。
5. 中世後期以降、貨幣経済が浸透し、また黒死病（ペスト）の流行などで人口が減少すると、農奴がかつての不自由な身分から解放される動きがみられるようになった。とくにイギリスではこの現象が進み、（G）と呼ばれる独立自営農民が誕生した。
6. 新大陸では、スペインがアステカ王国やインカ帝国を征服すると、スペイン国王が植民者に土地と先住民に対する支配をゆだねる（H）制を導入した。
7. エルベ川以東の東部ドイツや東ヨーロッパの地域では、16世紀以降、領主層が

直営地経営を拡大し、農民に対する支配を強化して、輸出用穀物を生産する
(I) がひろまった。

8. フランス革命は、農奴制など封建的特権を廃止した。他方ロシアでは、農奴制は
その後も続き、(J) 年になってようやく農奴解放令が発布されて、農奴に人
格的自由が認められたのである。

II つぎの文章を読み、下線部分(1)～(15)について下記の【設問】に答え、解答用紙の所定の欄にその答えを正しく記入しなさい。(30点)

古代ギリシアはヨーロッパ文化の源泉であるとみなされてきた。たとえば、ホメロスの叙事詩は、今日までヨーロッパ文学に多大な影響を与えてきた。ルネサンスでは、古典古代の文化が「再発見」されたといわれる。さらに、ヨーロッパ文化の源泉としての古代ギリシア像は、啓蒙思想のなかで育てられ、18世紀後半以降、確立された。彫刻などの古代ギリシア美術の「理想的美しさ」も論じられ、19世紀にはヨーロッパ各国の博物館や美術館がギリシアの美術品を競って収集した。

しかし、この理想化された古代ギリシアは、近現代まで続くギリシアの歴史とどのように関わるのだろうか。今日のギリシア共和国とその周辺の地域の歴史は、多様な民族、文化、宗教の交差する舞台であった。ヘレニズム時代を経て、紀元前146年にはローマの属州となった。ローマ帝国が東西に分かれた後、ギリシア地域を支配した東ローマ帝国(ビザンツ帝国)が、ギリシアの文化を継承した。しかし、6世紀から(6) スラヴ人の侵入と定住が始まり、9世紀末には、北からアジア系遊牧民を起源とする王国も侵入を試みるなど、ギリシア地域には多様な民族が流入した。さらに、第4回十字軍がコンスタンティノープルを占領すると、ギリシア地域周辺には十字軍諸侯によってアテネ公国などがたてられた。

1453年、ビザンツ帝国は滅亡し、ギリシア地域もオスマン帝国のもとに服した。1821年、ギリシア独立戦争が勃発したが、1825年にはオスマン帝国から要請を受けたエジプト軍の攻撃によって独立戦争の継続が困難になった。しかし、列強の介入によりエジプト軍は撤退し、1830年、ロンドン議定書によりギリシアの独立が認められた。この独立運動において、ヨーロッパにおける古代ギリシアへの関心の高まりが、近代ギリシアの政治的活動と結びついた。独立後も、古代ギリシア文化の象徴とみなされたアテネを首都とし、古代遺産を保護するために国立博物館や考古学調査の組織をつくるなど、近代ギリシアは古代ギリシアに国家形成のよりどころを求めようとしたのである。

その後、列強の動きに翻弄されながらも、離散したギリシア人の居住地域の回復とビザンツ帝国の再現を夢見る大ギリシア主義を支えに、ギリシアは領土の拡大をめざ

した。1910年代には2回⁽¹²⁾のバルカン戦争に参加してマケドニア南部を獲得した。第一次世界大戦後、ギリシアは小アジアにも侵攻したが、トルコの民族運動を刺激する結果となり、結局撤退することとなった。⁽¹³⁾

第二次世界大戦中はドイツ軍やイタリア軍に侵攻され、解放された後も内戦の混乱が続いた。⁽¹⁴⁾1967年、アメリカの承認のもとで軍事独裁体制が樹立されたが、1974年⁽¹⁵⁾に民主政に復帰した。1981年、ギリシアはヨーロッパ共同体に加盟した。

【設問】

- (1) たとえば、ギリシア文字が西欧系諸文字の源流となった。では、そのギリシア文字の直接の源となった文字は何か。
- (2) ホメロスが作者あるいは編者とされるトロイア戦争に関する叙事詩を二つあげよ。
- (3) 古代ギリシア・ローマの文化を理想とする古典主義を代表するドイツの文豪で、『ファウスト』を著したのは誰か。
- (4) 大英博物館はパルテノン神殿の彫刻の一部を展示しているが、ペリクレスのもと、このパルテノン神殿の造営を監督した古代ギリシアの彫刻家は誰か。
- (5) アレクサンドロス大王の死後、ギリシア地域を支配した王朝を何というか。
- (6) ギリシア正教会成立の契機のひとつとなった聖像禁止令を726年に出した皇帝は誰か。
- (7) 7世紀に建国されたが、その後スラヴ化が進み、ギリシア正教に改宗したこの王国を何というか。
- (8) 第4回十字軍に多大な影響力を持ったイタリアの都市国家はどこか。
- (9) オスマン帝国では、イスラーム教に改宗しなかった被征服住民は、貢納の義務と一定の制限に服すれば信仰を認められた。このような人々を何というか。
- (10) ギリシア独立戦争を支援するためにギリシアに駆けつけたが、病死したイギリス・ロマン派の詩人は誰か。
- (11) しかし、このような考古学調査の組織化によって、欧米列強の人々による大規模な発掘競争が可能となった。1870年代にミケーネを発掘したドイツ人は誰か。
- (12) パン=スラヴ主義の先頭に立ってバルカン戦争に参加し、マケドニアの北部を獲得した国はどこか。

- (13) ギリシア軍が占領したが、トルコ国民軍が回復し、ローザンヌ条約でトルコ領とされた地域はどこか。
- (14) ギリシアを冷戦体制におけるバルカン・東地中海政策の要と位置づけ、トルコとギリシアを援助するという宣言を1947年におこなったアメリカの大統領は誰か。
- (15) ギリシア系住民とトルコ系住民の緊張関係が続くキプロスで、ギリシアへの統合をめざすグループの闘争にギリシアが加担したことが、軍事政権崩壊の一因となった。このキプロス島を1878年から1960年まで支配した国はどこか。

III つぎの文章を読み、下線部分(1)~(10)について下記の【設問】に答えて、空欄 (A) ~ (E) に適当な語句を入れ、解答用紙の所定の欄にその解答を漢字で正しく記入しなさい。(30点)

珠江の河口部に位置し中国南部で最大の都市人口をもつ現在の (A) 市は、前 3 世紀に中国を統一した秦が県を設置して中国北部の都市網と結合させたことで、東アジアを代表する港湾都市のひとつとしての歴史を開始した。秦末の混乱に乗じて独立した国家 (B) は、この都市を拠点に南海貿易で栄えたが、前漢の盛期を築いた武帝によって前 111 年に滅ぼされ、前漢の地方行政区画に編入された。(1) (A) は、三国時代に中国南部を支配した呉の行政区画の名称にちなんで現在の名となり、(2) その後も、南朝の諸王朝と東南アジア諸国との交易の拠点となって繁栄した。(3)

7 世紀初の隋煬帝による大運河の開通は、(4) 内陸水運と海運を連結することで中国沿海地帯の都市成長の契機をつくり、中国大陸の沿海部がユーラシア大陸の港湾都市網のなかにくみこまれていくようになった。海上貿易の拡大に応じて、唐は海上貿易を管理する中国最初の市舶司を (A) に設置し、外国貿易の振興と統制をはかった。ペルシア湾と河川でつながるバグダードがアッバース朝の都となると、(5) 多数のムスリム商人が中国大陸沿海部の諸都市に來航するにいたった。ムスリムが多く居留する唐宋時代の都市は、(A) から泉州、現在の寧波市にあたる (C) を経て、長江と大運河の交点付近に位置する揚州にまで達した。これらのムスリム居留地の多くは、9 世紀後半に勃発した塩の密売商人である王仙芝・(D) の乱などによって打撃をうけたが宋代には復活し、元になると中央政界に影響を与える人物も生み出した。(6)

13 世紀後半、陸路と海路の結節点の大都に都をおいた元は、流通制度の改革につ(7) とめて内陸都市網と沿海都市網の系統的な結合をめざした。ただ、海運による貿易額と貿易量の拡大は、地域勢力を台頭させて中央政府による貿易統制の必要性を高めた。また、海外交易の拡大は、各地域の貨幣需給の均衡を崩して既存の産業に打撃を与え、社会的格差や治安悪化をもたらして政治権力自体を動揺させもした。このために、(8) 14 世紀末以後、東アジア各国は外国貿易の制限を強化する政策をとるようになった。

19 世紀以後、蒸気船による海外貿易網の拡大をはかる欧米諸国は、大型船舶が寄

港できる水深のある港湾都市の建設を世界各地で進め、東アジアにおいても貿易の利権を求めてたがいに争った。1842年に清から割譲された（ E ）をイギリスが東アジア貿易の拠点港として整備したことは、東アジアにおける新たな港湾都市建設の時代の幕開けを物語っていた。現在、（ E ）と（ A ）が新旧の時代を象徴する都市として水運・陸運・空運でたがいに密接に連携しあい地域経済圏の核として発展している背景には、このように長く複雑な歴史が存在するのである。

【設問】

- (1) この後、遼東半島から朝鮮北部にかけての地域も前漢に征服された。前108年に現在の平壤付近の地に置かれた前漢の郡は何というか。
- (2) 江南に建国した呉の初代皇帝は誰か。
- (3) メコン川下流域に本拠をおき、中国の南朝とインドを結ぶ交易で繁栄した国家は何というか。
- (4) 大運河の南端ないし南の起点に位置することで大きく発展し、南宋になると都の臨安がおかれることになった唐代の都市は何というか。
- (5) アッパース朝の誕生とはほぼ同時期に中国大陸で生じた大反乱を指揮し、三節度使を兼ねていた人物は誰か。
- (6) 元は人民を四種類に分類して統治した。ムスリム商人は、モンゴル人に次ぐ序列に種別された。ムスリム商人の含まれる人民分類を何というか。
- (7) 元の統治下で広く流通した政府発行の紙幣を何というか。漢字二字で記せ。
- (8) 海外貿易の統制は中国・朝鮮・日本であいついで施行された。14世紀末に明の洪武帝によって施行された海外貿易統制策を何というか。
- (9) 1860年の北京条約にもとづいて開港し、北京の外港として発展することになる港湾都市を何というか。
- (10) 中華人民共和国が（ A ）を核とする地域をモデルに1990年代初期にはじめた、共産党体制のもとで資本主義経済の導入をはかる経済のことを何というか。

IV つぎの文章を読み、下線部分(1)～(10)について下記の【設問】に答え、解答用紙の所定の欄にその答えを正しく記入しなさい。(20点)

アラビア半島を中心に成立したイスラーム世界は、やがて地中海世界や西アジアに発展していった。ウマイヤ朝のタンジャ（タンジール）駐屯軍指揮官ターリク=ブン=ズィヤードは、711年に地中海の海峡を渡ってイベリア半島に上陸し、トレドに首都をおく王国を滅ぼした。⁽¹⁾ウマイヤ朝の軍隊はさらに北上してピレネー山脈を越えてフランク王国の領土に達した。⁽²⁾

ウマイヤ朝が滅亡すると、ウマイヤ家の一族であるアブド=アッラフマーン1世はシリアからイベリア半島に逃れ、756年、コルドバを首都に後ウマイヤ朝を建てた。⁽³⁾8世紀後半、武勇にすぐれたピピン3世の子カールが、フランク軍を率いてイベリア半島に進出すると、後ウマイヤ朝はこれを退けた。⁽⁴⁾

後ウマイヤ朝は、10世紀のアブド=アッラフマーン3世の時代に最盛期を迎えた。⁽⁵⁾アンダルスと呼ばれたムスリム支配下の地域では農業技術が発達し、コルドバをはじめとする多くの都市が繁栄した。イスラームへの改宗者が増加し、イスラーム諸学や芸術が栄え、イスラーム文化の受容が進んだ。

1031年に後ウマイヤ朝が滅びると、イベリア半島では30余りのムスリムの小王国が分立し、キリスト教徒によるレコンキスタ（国土再征服運動）が進んだ。その頃アフリカのサハラ西部でベルベル人によるスンナ派の宗教運動の中から成立したムラービト朝⁽⁶⁾は、イベリア半島に進出してレコンキスタの波を一時的にとめた。

12世紀前半に、北アフリカで新たに興った宗教運動を基礎にムワッヒド朝⁽⁷⁾が成立した。この王朝もイベリア半島に進出し、ムラービト朝を倒し半島南部を支配した。しかし、13世紀後半になるとこの王朝もおとろえ、レコンキスタがさらに南進した。

レコンキスタが進むなか、1236年にイスラーム勢力の最大の拠点コルドバは、イベリア半島の中央部でレコンキスタを進めていた王国によって併合された。⁽⁸⁾一方、バルセロナを拠点に地中海方面にも進出したもうひとつの王国⁽⁹⁾はイベリア半島の東部でこの運動を進めた。さらにポルトガル王国も西部でこの運動に参加した。

その結果、イベリア半島の大部分はキリスト教徒の支配下に入った。イベリア半島においてグラナダを拠点として奮闘した最後のイスラーム政権であるナスル朝⁽¹⁰⁾は、ス

ペイン王国によって1492年に滅ぼされた。これによって711年から続いたイベリア半島におけるイスラームの政治権力は消滅したが、イスラーム文化は残り続けた。

【設問】

- (1) この王国は何と呼ばれるか。
- (2) 732年、フランク領に侵入したウマイヤ朝軍をトゥール-ポワティエ間の戦いで破ったフランク王国の宮宰は誰か。
- (3) この王朝の君主が建国当初、名乗った称号は何というか。
- (4) この出来事にもとづき、11世紀末頃に成立した英雄叙事詩を何というか。
- (5) アブド=アッラフマーン3世は、地中海を挟んで北アフリカを支配していた王朝と対抗したが、その王朝は何と呼ばれるか。
- (6) この王朝が首都とした都市はどこか。
- (7) コルドバ出身でムワッヒド朝に宮廷医師として仕え、アリストテレスの哲学書の高度な注釈をおこない、西欧中世思想に大きな影響を与えた哲学者は誰か。
- (8) コルドバを併合した王国は何と呼ばれるか。
- (9) この王国は何と呼ばれるか。
- (10) チュニス出身で、14世紀に地中海諸国の支配者に仕え、一時この王朝の支配者に仕えたこともあるイスラーム世界を代表する歴史家として称賛された人物は誰か。

